

## 10日間で2回骨折、「転ばせてるのか？」と家族が激怒

### ■ 椅子に上ってしまう認知症の利用者

Hさん(74歳女性)はご主人と一人娘と3人で暮らしていましたが、ご主人が亡くなり認知症を発症しました。1年前くらいから娘さんも対応に困ることがあり、グループホームに入所することになりました。入所前には「静かで大人しい性格」と聞いていましたが、入所の1週間後から奇妙な行動が感じられるようになりました。

ダイニングの照明を「お月様がきれい」と言って、椅子の上で立ち上がり転落しそうになったり、テーブルの上に乗りました。施設では娘さんに知らせるかどうか迷いましたが、「お母様へのお気持も強い娘さんだから心配するだろうし、知らせても仕方がない」と、娘さんには一切知らせませんでした。ところが、その後Hさんは居室のベッドに椅子を載せ上って転落し、左手の小指を骨折しました。ホームでは娘さんに事故状況を報告しましたが、「慎重な母がそんなことをする訳がない」と否定的でした。そしてその10日後には、居室の整理筆筒に登り転落して、左足首を骨折しました。引き出しを階段のように引き出して上まで昇り、転落したのです。娘さんにありのままを報告すると「母がそんなことができる訳がない。ホームは嘘をついている、きっと転ばせたに違いない」と市に苦情申し立てをしました。

## 予期しない危険な行動は家族と一緒に対策を考える

### ■ Hさんの危険な行動の原因

認知症の利用者は施設入所後にその行動が急激に変化したり、認知症が急に悪化することがあります。原因は急激な生活環境や生活習慣の変化であると言われています。そのため、入所当初は生活環境を居宅に合わせたり、従来の生活習慣も大事にしなければなりません。



しかし、どんなに居宅での生活に合わせようとしても、限界があり、本事例のような信じられない行動変化が起きることがあります。なぜHさんはベッドの上に椅子を載せて上ったり、筆筒によじ登ったりしたのでしょうか？Hさんはこのホームの暖色の電球を「お月さんがきれい」と何度も言っていたことから想像すると、この“お月さん”を自分の手で取ろうとして椅子などの高いところによじ登ったのかもしれない。

### ■ 事故につながる危険な行動は必ず伝える

このような認知症が急激に進んで生活行動に様々な問題が発生した時、施設は家族の拒否反応を心配してありのままに伝えようとしない場合があります。本事例のように家族のショックを心配して遠慮することもありますし、認知症の悪化が施設のケアのせいだと思われたくないことも一つの要因かもしれません。ありのままに伝えても家族が受け入れてくれる保証もありません。家族は、信じられない行動をしたと報告を受けると、驚くと同時に不信感につながることもしばしばあるため、施設は伝え方にも工夫が必要です。では、どのように家族に伝えたら良いのでしょうか？

### ■ 家族に伝える工夫が必要

事故の危険だけを伝えても家族は受け入れてもらいにくく、事故を防ぐ方法を相談すると良いでしょう。危険な行動が発生してからでは相談もしにくくなり、入所前に利用者の生活行動が変化することを想定して、「入所当初は生活環境に慣れないため、居宅で見られなかったような行動が出て、事故につながる可能性があります。事故を防ぐためにはご家族に協力が必要です」と家族に協力をお願いしておくとも家族も受け入れやすくなるでしょう。また、次のような工夫をして家族の理解を得ている施設もあります。

①利用者の危険な行為を発見した時はできる限りスマホなどで、動画に撮ってその危険行為の原因を分析する。②対策を検討した後、その動画の映像も家族に見せて原因と対策を説明する。

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

マーケット開発部 市場開発室

担当 堀江・窪田 TEL 03-5789-6456

監修 株式会社安全な介護 山田滋

担当課・支社 代理店